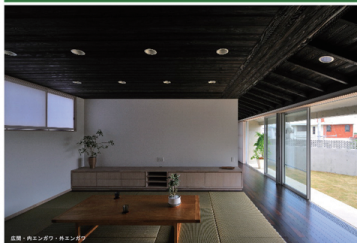


## 庭の家 — 庭を生活の中心に —

敷地は4m高い高低差をもつ道路に挟まれた場所にあります。高低差の利用、周辺との関係性、開放り…種かいかをも悩んで設計していた先方に「庭が1番大事」との話が…。メインは家ではなく、庭！！！。どうすれば庭を生活の中心にできるかの、そのことを設計の拠り所にしてこの住宅は完成しました。



広間・西エンガワ・ホウレンソウ



広間

広間・台所



玄関

西エンガワ

手洗室



表と後宅



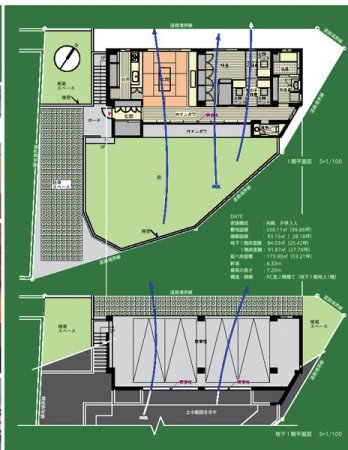
玄関

玄関



玄関

玄関



庭と暮らす。庭と共に思い出を刻む家

### 庭を生活の中心にするために行った10項目

1. 中間領域を消した開放り  
→エンガワ(縁側)でテラス/ソトをあいまいに出せる。伝統的な洋構法での空間構成の活用。実の造形も室内への侵入を拒まず、南からの自然光も多く室内に入り込む。
2. エンガワは縁側の一部  
→エンガワと縁側はできるだけ併せられない。引手をも通して戸を開け出したままの生活を可能にする。部屋はエンガワとながり、エンガワはとつながり。
3. 壁と天井の高低をつくる  
→敷板の高低をつらない。「壁」を無化することで室内の高低がなくなる。
4. 高低差のある庭の活用  
→テラス/ソトで自然の高低差を解消することでソトとの境界のない庭を確保する。
5. 縁側を消す  
→縁側のインテリアスを取り除く。ハイリッシュ建築でのテラスの境を消すことで内部と外部との感覚的距離を近づける。
6. 縁側を消す  
→縁への開口部を最大限取るために2階の床に新築の間に鉄骨を設ける。窓が壁で抑えられることなく大きく確保でき、壁と内部とのつながりがなくなる。
7. 縁側を消す  
→縁とつながっているパブリックスペースを最大限に活用するための方法。それぞれの場所に対応してシアタースペースをつくる。
8. 子供部屋は縁側の外に  
→1階家は縁側として、建て、壁を置く場所、その他は外部の場所で行う。子供部屋は縁側にない独立の部屋。
9. 壁と天井の高低をつくる  
→壁と天井の高低をつくることで、壁と天井の高低を揃える。構造上、壁の高低を揃えることで、上下層のつながりをもたす。
10. 高低差のある庭の活用  
→縁との縁を消すように開口部を設ける。高低差のある庭を最大限に活用し、構造上、壁の高低を揃えることで、上下層のつながりをもたす。

